

論文奨励賞

渡部瑞希「観光研究における真正性の再考察

——カトマンズの観光市場、タメルで売られる『ヒマラヤ産の宝石』の事例から」

(『観光学評論』5巻1号、pp. 21-35 2017年3月)

<講評>

本論文は、カトマンズの観光市場タメルで売られている「ヒマラヤ産の宝石」をめぐる事例を扱いつつ、観光対象物というモノが、その虚偽性を暴かれたとしても真／偽の判断のつかない「公然の秘密」によって成り立っていること、真／偽の「決定不可能性」ゆえに真正なるものが永遠に探求される魅惑的な消費対象となることを明らかにしている。筆者はこれを「真正性のリアリティ」と表現する。

本論文が興味深いのは、何よりも、ジンメルによる『秘密の社会学』の議論を観光の「真正性」研究に応用しているという理論的な側面である。「秘密への配慮」に着目するジンメルの議論を用いつつ、「秘密への配慮」が観光の「真正性」を読み解いていくうえで重要であると筆者は主張する。

こうした議論は既存の観光の「真正性」研究には明示的にはなかったものであり、このことによって、本論文は、学術的に高いオリジナリティを有するものとなっている。ただしフィールドワークによる記述については、人類学的には、もう少し「厚い記述」を目指すべきではないかと感じる。これらの点は、ぜひとも今後の著者の研究に期待したいところである。

以上の点を鑑み、本論文が「論文奨励賞」に値すると考える。